

日帰り手術について

みやざき外科・ヘルニアクリニック
院長 宮崎 恭介

最近、外科手術の中で、日帰り手術が増えてきています。

日帰り手術は正式には短期滞在手術といいますが、手術をしたその日に帰宅する日帰り手術と、入院後24時間以内に退院する1泊入院手術の2種類があります。

日帰り手術ができる疾患としては、そけいヘルニア、下肢静脈瘤(りゅう)、痔核、乳腺や皮膚のしこりなどがあります。従来、これらの疾患に對する手術では、手術後の影響が大きく、強い痛みを伴うために1週間程度の入院が一般的でした。しかし、麻酔や手術の方法を工夫し、手術後

の影響を少なくすることで、術後の痛みを抑え、日帰り手術が可能となったのです。

日帰り手術の利点は、手術翌日から日常生活に戻れる、仕事を休まずに済む、長期入院のわずらわしさが無い、入院が短いために医療費がかさ

まないなどです。米国では手術の9割が日帰り手術で、日帰り手術センターなどの専門施設で集中的に行われています。さらに、外科医は高いレベルの医療技術を維持しています。日本でも近年、国民医療費の高騰が社会問題になっていますが、増え続ける医療費の削減に有効な手段が入院期間の

短縮で、その究極の形が日帰り手術なのです。具体的には、そけいヘルニアで手術を受ける場合、従来は1週間の入院が必要でしたが、日帰り手術なら大幅な日数を削減できます。その分、医療費がかからないことも明らかです。

現在の医療では、手術Ⅱ入院の時代ではなくなりつつあります。しかし、心臓疾患や肝硬変などの合併症がある場合は、日帰り手術ができない場合もあります。日帰り手術を希望される場合には、日帰り手術を行っている医療機関で、可能かどうか、直接医師の診察を受ける必要があります。